

青年期における同性の友人との間における 葛藤のあり方について

——自我同一性と社会的スキルとの関連から——

笠 作 和 生

・問題と目的 青年期の発達課題である自我同一性の獲得には親密な他者の存在が重要であり、対人関係の開始や維持には社会的スキルが必要とされている。しかし、その不十分さから対人関係において葛藤を感じている青年が一定数いることも挙げられている。表面的で深化しない対人関係を円滑にするために自我同一性や社会的スキルのどの側面がより影響しているのかを検討したい。自我同一性と社会的スキルの関連があるとされる中で、同性友人との心理的距離からくる葛藤とどのような関連があるかを検討することで、より円滑な友人関係を構築する一助になるのではないかと考える。

・方法 多次元自我同一性尺度、KISS-18、山アラシ・ジレンマ尺度の3つの尺度を用いて質問紙法で、2014年10月下旬～11月中旬にかけて関西圏の私立4年生大学に在籍する大学生を対象に調査を行った。

・結果 本調査では246名の有効回答者が得られた。重回帰分析の結果、「中核的同一性」は心理的距離の接近度合いに影響を受け、「心理社会的同一性」は心理的距離の離反度合いに影響を受けることが示された。社会的スキルは「トラブル処理スキル」と「仕事スキル」が山アラシ・ジレンマに有意な影響を与え、「会話スキル」は影響を与えない可能性が示された。分散分析の結果、「APP1」では自我同一性と社会的スキルとの間に交互作用がみられた。また、「APP2」と「LEA1」において自我同一性に対して主効果が認められ、高群がその他の群と比べて山アラシ・ジレンマが有意に低いことが示された。

・考察 大学生において、自我同一性が成熟している人ほど群れ関係群のような関係性を親密な同性友人との関係において築く傾向が低く、その中でも「中核的同一性」が成熟しているほど親密な同性との友人関係を自分の居場所だと感じている可能性があることが示された。心理社会的自己同一性よりも中核的同一性が関係しているという結果に関しては、既に構築された友人関係について調査しているため、他人からの自分への理解を示す対他的同一性がより影響したのではないと思われる。社会的スキル内の「会話スキル」において影響が見られなかったのは、関係開始において会話スキルは重要であるとされており、既に関係が構築されている親密な同性友人との関係では開始よりも維持の方が重要であるからだと推測する。3つの関連から見ると、自我同一性の形成は確かに山アラシ・ジレンマの低減に繋がっている可能性が考えられるが、同時に社会的スキルが獲得されていないと自分が傷つくことに対する不安を高める可能性が示唆された。